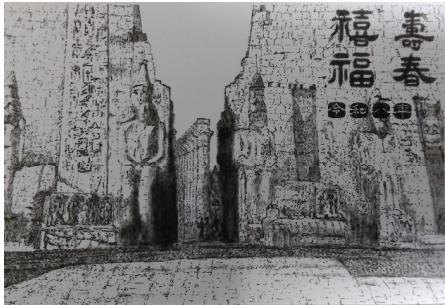


朝食後には、抹茶と共に縁起を担いで「花びら餅」をいただく。元来、“お正月”はお盆と同じく先祖の靈や祖先神を迎える神事でもあり、その年の福徳を司る穀物の歳神(歳徳神)を迎える儀礼が行われる。それに合わせて菓子が作られるが、その代表的な菓子が「花びら餅」である。丸くのした餅に小豆の渋で赤に染めた菱餅を置き、白味噌とゴボウの甘煮をのせて半円状に折り畳んだもので、「菱 茶」^{はなびら}という宮中の正月食に由来するという。中に挟むゴボウは「押鮎」^{おしあゆ}の見立てとされる(note5)。

今年も楽しくも忙しい年が始まる。

【追記】

今年も忙しい年明けとなった。部屋の片付けは相変わらず経過中。12月初旬に休みをいただいて50年ぶりに出かけたエジプト旅行については、別途報告予定である。



12月
ルクソールにて

note

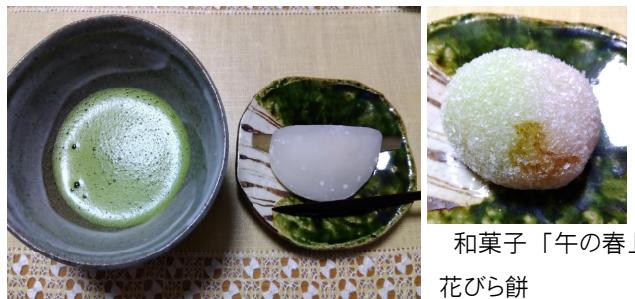
1. 「商品建築」2013年8月号, Vol.58-8. pp.63-71.
2. 他にも馬にまつわる寺社としては台東区稻荷町にある矢先稻荷神社も有名。本堂天井に飾られた100枚の絵が知られる。
3. 「茅の輪くぐり」は、本来6月30日と12月31日に行うもので、前半の罪や穢れ祓いを、また後半の無病息災を願うもの。
4. 「五節句」とは、次の5つをいう。
 - ◆ 1月7日（人日） ◆ 3月3日（上巳）
 - ◆ 5月5日（端午） ◆ 7月7日（七夕）
 - ◆ 9月9日（重陽）
5. 「押鮎」とは、鮎を塩漬けにして重石で保存したもの。平安時代に新年の「歯固めの儀式」で使われた縁起物。

ref. この年末年始に読んだ本

- 1) 酒井 信 (2025) 『松本清張の昭和』講談社現代新書, 262 ページ.
- 2) 内田 洋子 (2021) 『モンテレッジオ 小さな村の旅する本屋の物語』文春文書, 302 ページ.
- 3) 馬場 匡浩 (2021) 『ファラオ 古代エジプト王権の形成』ちくま新書, 304 ページ.
- 4) 白川 尚史 (2025) 『ファラオの密室』宝島社文庫, 352 ページ.
- 5) 犬童 千絵 (2015) 『青いファラオの瞳 男装の女王の物語』1巻 KADOKAWA, 200 ページ (漫画).



七草粥



和菓子「午の春」
花びら餅



京都の老松(本店)HPより



北斎風に描いた水墨画擬き 我家の正月用飾り



昇降口に飾った午の絵